

## 運用報告書 (全体版)

第11期<決算日2017年7月31日>

# 新日鉄住金グループ株式オープン

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式
信託期間	2006年7月31日から無期限です。
運用方針	信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。
主要投資対象	新日鐵住金株式会社（以下「新日鐵住金」といいます。）およびそのグループ会社のうち、原則として東京証券取引所第一部および第二部に上場されている株式を主要投資対象とします。
運用方法	新日鐵住金およびそのグループ会社のうち、原則として東京証券取引所第一部および第二部に上場されている株式の中から流動性を勘案した銘柄に投資し、新日鐵住金およびそのグループ会社の銘柄群全体の動きを捉えることを目標に運用を行います。 組入銘柄の投資比率の決定にあたっては、原則として組入銘柄の時価総額に応じて投資比率を決定します。ただし、分散投資および新日鐵住金を含めたグループ会社の銘柄群全体の動きを捉えるという観点から、新日鐵住金株式の時価総額が組入銘柄の時価総額合計の50%を超える場合は、新日鐵住金株式の投資比率を約50%までとし、残りの約50%をグループ会社の株式の各銘柄の時価総額に応じた比率で投資します。組入銘柄の投資比率の調整は、原則として上記で定める方針に基づいて四半期毎に行います。株式の組入比率は、原則として高位を保つことを基本とします。
組入制限	株式への投資割合には、制限を設けません。外貨建資産への投資割合は、信託財産の純資産総額の20%以下とします。
分配方針	決算日（原則として7月31日。休業日の場合は翌営業日。）に、経費控除後の利子配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の中から、基準価額水準、市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わない場合があります。

受益者の皆さまへ

毎々格別のお引立てに預かり厚くお礼申し上げます。

さて、「新日鐵住金グループ株式オープン」は、2017年7月31日に第11期の決算を行いました。ここに、運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

<運用報告書に関するお問い合わせ先>

コールセンター：0120-104-694

受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで

お客さまのお取引内容につきましては、購入された

販売会社にお問い合わせください。

アセットマネジメントOne 株式会社

東京都千代田区丸の内1-8-2

<http://www.am-one.co.jp/>

## ■最近5期の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	標準価額		株式組入率 比	株式先物率 比	純資産額
		税分 込配	み金 騰落 中率			
7期(2013年7月31日)	円 4,933	円 0	% 49.3	% 99.6	% -	百万円 2,589
8期(2014年7月31日)	5,670	0	14.9	99.4	-	2,686
9期(2015年7月31日)	5,966	0	5.2	99.5	-	2,207
10期(2016年8月1日)	4,329	0	△27.4	99.2	-	1,440
11期(2017年7月31日)	6,199	0	43.2	99.6	-	1,786

(注1) 株式先物比率は、買建比率－売建比率です。

(注2) 当ファンドは、東京証券取引所第一部および第二部に上場されている株式の中から、流動性を勘案した銘柄に投資し、新日鉄住金およびそのグループ会社の銘柄群全体の動きを捉えることを目標に運用を行います。

従って、同様のコンセプトによって構成される適切な指数が存在しないため、当ファンドではベンチマークを特定しておりません。

(注3) △(白三角)はマイナスを意味しています(以下同じ)。

## ■当期中の基準価額の推移

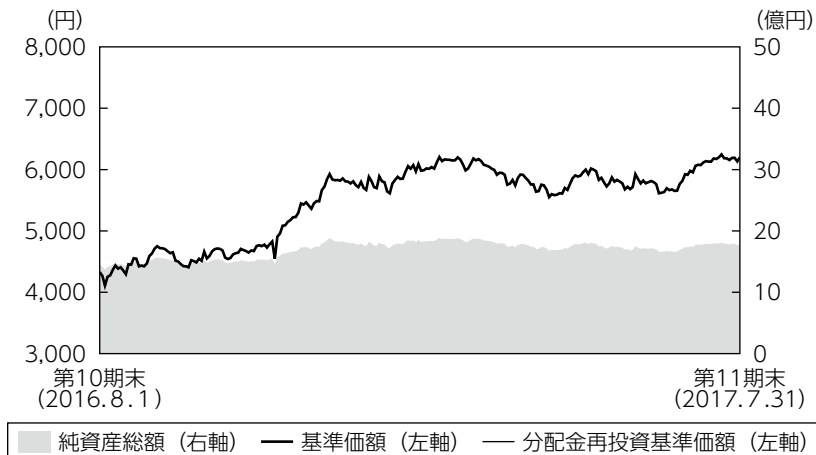
年月日	基準価額	標準価額		株式組入率 比	株式先物率 比
		騰落率	騰落率		
(期首) 2016年8月1日	円 4,329	% -	% 99.2	% -	
8月末	4,712	8.8	99.2	-	
9月末	4,551	5.1	99.3	-	
10月末	4,767	10.1	99.1	-	
11月末	5,361	23.8	99.4	-	
12月末	5,668	30.9	99.2	-	
2017年1月末	5,970	37.9	99.8	-	
2月末	6,017	39.0	99.4	-	
3月末	5,864	35.5	96.2	-	
4月末	5,887	36.0	96.3	-	
5月末	5,681	31.2	98.5	-	
6月末	5,914	36.6	99.0	-	
(期末) 2017年7月31日	6,199	43.2	99.6	-	

(注1) 騰落率は期首比です。

(注2) 株式先物比率は、買建比率－売建比率です。

## ■当期の運用経過（2016年8月2日から2017年7月31日まで）

### 基準価額等の推移



第11期首： 4,329円  
第11期末： 6,199円  
(既払分配金0円)  
騰落率： 43.2%  
(分配金再投資ベース)

- 純資産総額 (右軸) — 基準価額 (左軸) — 分配金再投資基準価額 (左軸)
- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまが利用するコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。
- (注4) 当ファンドはベンチマークを定めておりません。

### 基準価額の主な変動要因

新日鉄住金株式会社は、中国政府が鉄鋼メーカーの過剰生産能力の削減を推進したことにより鋼材需給が構造的に改善し、鋼材価格が上昇したことや、為替市場で円安が進んだことなどから事業環境が改善し、前期末比で39.9%上昇しました。グループ会社の銘柄群についても、国内株式市場の上昇を背景に全体としてプラス寄与となり、基準価額は大きく上昇しました。

### 投資環境

国内株式市場は大幅に上昇しました。2016年11月の米国大統領選挙でトランプ氏が勝利したことを機に米国の経済政策に対する期待感が急速に台頭し、世界的に株高が進みました。また、F R B (米連邦準備理事会) が金融引き締め政策に舵を切った一方で日銀は金融緩和政策を継続し、為替相場で円安ドル高基調となったことも国内株式市場の上昇要因となりました。

## ポートフォリオについて

新日鉄住金およびそのグループ会社の銘柄群全体の動きを捉えることを目標とし、あらかじめ定められた投資対象銘柄・投資比率に基づいて運用を行いました。新日鉄住金株式の投資比率は当期間を通じて約50%を維持し、グループ会社の各銘柄は時価総額に応じた比率で組入れ、四半期毎に投資比率の調整を行いました。また、当期間を通じて株式の組入比率は、原則として高位を維持しました。

### 【運用状況】

(注1) 組入比率は純資産総額に対する割合です。

(注2) 業種は東証33業種分類によるものです。

### ○組入上位10業種

#### 期首 (前期末)

No.	業種	組入比率
1	鉄鋼	64.7%
2	化学	8.9
3	金属製品	7.4
4	情報・通信業	5.2
5	輸送用機器	4.5
6	卸売業	2.7
7	ガラス・土石製品	1.8
8	非鉄金属	1.2
9	海運業	0.8
10	鉱業	0.8



#### 期末

No.	業種	組入比率
1	鉄鋼	63.1%
2	金属製品	10.9
3	化学	7.7
4	輸送用機器	4.5
5	情報・通信業	4.2
6	卸売業	3.2
7	ガラス・土石製品	1.8
8	非鉄金属	1.1
9	海運業	1.0
10	鉱業	1.0

### ○組入上位10銘柄

#### 期首 (前期末)

No.	銘柄名	通貨	比率
1	新日鐵住金	日本・円	47.1%
2	エア・ウォーター	日本・円	8.9
3	SUMCO	日本・円	5.8
4	新日鐵住金ソリューションズ	日本・円	5.2
5	大同特殊鋼	日本・円	5.0
6	日新製鋼	日本・円	3.5
7	日鉄住金物産	日本・円	2.7
8	山陽特殊製鋼	日本・円	2.3
9	共英製鋼	日本・円	2.3
10	ユニプレス	日本・円	2.1
組入銘柄数		28銘柄	



#### 期末

No.	銘柄名	通貨	比率
1	新日鐵住金	日本・円	46.8%
2	SUMCO	日本・円	9.6
3	エア・ウォーター	日本・円	7.7
4	大同特殊鋼	日本・円	5.3
5	新日鐵住金ソリューションズ	日本・円	4.2
6	日鉄住金物産	日本・円	3.2
7	日新製鋼	日本・円	2.7
8	ユニプレス	日本・円	2.2
9	山陽特殊製鋼	日本・円	2.1
10	大阪製鐵	日本・円	1.7
組入銘柄数		28銘柄	

## 分配金

当期の収益分配金につきましては運用実績等を勘案し、無分配とさせていただきます。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

## ■分配原資の内訳（1万口当たり）

項目	当期
	2016年8月2日 ～2017年7月31日
当期分配金（税引前）	－円
対基準価額比率	－%
当期の収益	－円
当期の収益以外	－円
翌期繰越分配対象額	1,963円

(注1) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金（税引前）」の額が一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金（税引前）」の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。また、小数点第3位を四捨五入しています。

(注3) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

## 今後の運用方針

引き続き、新日鉄住金およびそのグループ会社の銘柄群全体の動きを捉えることを目標とし、あらかじめ定められた投資対象銘柄・投資比率に基づいて運用を行います。組入銘柄の投資比率の決定にあたっては、原則として組入銘柄の時価総額に応じて投資比率を決定し、四半期毎に投資比率の調整を行います。また、株式の組入比率は、原則として高位を保つことを基本とします。

## ■1万口当たりの費用明細

項目	第11期		項目の概要
	(2016年8月2日 ～2017年7月31日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	50円	0.905%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は5,487円です。
(投信会社)	(21)	(0.377)	投信会社分は、信託財産の運用、運用報告書等各種書類の作成、基準価額の算出等の対価
(販売会社)	(27)	(0.485)	販売会社分は、購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託銀行)	( 2)	(0.043)	受託銀行分は、運用財産の保管・管理、投信会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	1	0.015	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、組入有価証券等の売買の際に発生する手数料
(株式)	( 1)	(0.015)	
(c) その他費用	0	0.002	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監査費用)	( 0)	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用
合計	51	0.922	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

## ■売買及び取引の状況（2016年8月2日から2017年7月31日まで）

株 式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国 内 上 場		千株	千円	千株	千円
		37.8 (△534.6)	46,023 (-)	213.8	271,699

(注1) 金額は受渡代金です。

(注2) ( ) 内は、株式分割、増資割当および合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

## ■株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期 中 の 株 式 売 買 金 額	317,723千円
(b) 期 中 の 平 均 組 入 株 式 時 価 総 額	1,681,169千円
(c) 売 買 高 比 率 (a)／(b)	0.18

(注) (b)は各月末の組入株式時価総額の平均です。

## ■利害関係人との取引状況等（2016年8月2日から2017年7月31日まで）

(1) 期中の利害関係人との取引状況

決 算 期 区 分	当			期		
	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	B/A	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	D/C
株 式	百万円 46	百万円 -	% -	百万円 271	百万円 16	% 6.0
金 銭 信 託	0.019	0.019	100.0	0.019	0.019	100.0

(2) 売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売 買 委 託 手 数 料 総 額 (A)	263千円
う ち 利 害 関 係 人 へ の 支 払 額 (B)	22千円
(B)／(A)	8.6%

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当期における当ファンドにかかる利害関係人とは、みずほ証券、資産管理サービス信託銀行です。

■組入資産の明細  
国内株式

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
<b>鉱業 (1.0%)</b>			
日鉄鉱業	31	2.8	17,332
<b>建設業 (0.2%)</b>			
三晃金属工業	15	1.3	4,316
<b>化学 (7.8%)</b>			
エア・ウォーター	73	64.5	138,223
<b>石油・石炭製品 (0.6%)</b>			
日本コークス工業	111.3	97	10,088
<b>ガラス・土石製品 (1.8%)</b>			
日本コンクリート工業	21.3	18.6	7,960
ジオスター	11.6	10	9,470
黒崎播磨	34	30	14,520
<b>鉄鋼 (63.3%)</b>			
新日鐵住金	349.9	308.6	836,923
中山製鋼所	232	20.5	13,714
合同製鐵	63	5.6	11,776
日新製鋼	40.4	35.6	48,131
共英製鋼	16.5	14.5	24,693
大阪製鐵	15.6	13.6	30,926
大同特殊鋼	160	141	94,752
山陽特殊製鋼	62	55	36,850
新日本電工	54	47.5	24,605
日亜鋼業	19.1	16.7	4,826
<b>非鉄金属 (1.1%)</b>			
大阪チタニウムテクノロジーズ	13.6	11.8	20,095

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
<b>金属製品 (10.9%)</b>			
SUMCO	108	95.2	170,979
高周波熱錬	16.5	14.1	14,325
東京製網	60	5.3	8,957
<b>機械 (0.3%)</b>			
住友精密工業	20	17	6,103
<b>輸送用機器 (4.5%)</b>			
ユニプレス	17.6	15.5	39,850
名村造船所	25.4	22.3	14,115
トピー工業	89	7.9	26,781
<b>海運業 (1.0%)</b>			
NSユナイテッド海運	88	76	17,556
<b>情報・通信業 (4.2%)</b>			
新日鐵住金ソリューションズ	39	32.2	74,800
<b>卸売業 (3.2%)</b>			
日鉄住金物産	114	10.1	57,469
合 計	株 数・金 額	株 数	金 額
	1,900.8	1,190.2	1,780,142
	銘柄数<比率>	28銘柄	28銘柄 <99.6%>

(注1) 銘柄欄の( )内は、期末の国内株式評価総額に対する各業種の比率です。

(注2) 合計欄の< >内は、期末の純資産総額に対する評価額の比率です。

(注3) 評価額の単位未満は切捨ててあります。

■投資信託財産の構成

2017年7月31日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株 式	千円 1,780,142	% 98.9
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	19,992	1.1
投 資 信 託 財 産 総 額	1,800,135	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨ててあります。%は、小数点第2位を四捨五入しています。

## ■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2017年7月31日)現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	1,800,135,147円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	19,030,747
株 式(評価額)	1,780,142,400
未 収 配 当 金	962,000
(B) 負 債	13,719,990
未 払 解 約 金	5,738,294
未 払 信 託 報 酬	7,962,825
そ の 他 未 払 費 用	18,871
(C) 純 資 産 総 額(A - B)	1,786,415,157
元 本	2,881,905,308
次 期 繰 越 損 益 金	△1,095,490,151
(D) 受 益 権 総 口 数	2,881,905,308口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額(C / D)	6,199円

(注) 期首における元本額は3,327,773,314円、当期中における追加設定元本額は116,584,626円、同解約元本額は562,452,632円です。

## ■損益の状況

当期 自2016年8月2日 至2017年7月31日

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	27,599,353円
受 取 配 当 金	27,611,863
受 取 利 息	1
そ の 他 収 益 金	2,254
支 払 利 息	△14,765
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	511,031,703
売 買 損 益	578,321,108
売 買 損 益	△67,289,405
(C) 信 託 報 酬 等	△15,337,909
(D) 当 期 損 益 金(A + B + C)	523,293,147
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	△1,119,618,539
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	△499,164,759
(配 当 等 相 当 額)	(315,208,598)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△814,373,357)
(G) 合 計(D + E + F)	△1,095,490,151
次 期 繰 越 損 益 金(G)	△1,095,490,151
追 加 信 託 差 損 益 金	△499,164,759
(配 当 等 相 当 額)	(315,208,598)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△814,373,357)
分 配 準 備 積 立 金	250,596,389
繰 越 損 益 金	△846,921,781

(注1) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) (C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 分配金の計算過程

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	26,814,052円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0
(c) 収 益 調 整 金	315,208,598
(d) 分 配 準 備 積 立 金	223,782,337
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)	565,804,987
(f) 1 万 口 当 た り 当 期 分 配 対 象 額	1,963.30
(g) 分 配 金	0
(h) 1 万 口 当 た り 分 配 金	0



## ■分配金のお知らせ

収益分配金につきましては運用実績等を勘案し、無分配とさせていただきます。

## 《お知らせ》

■D I AMアセットマネジメント株式会社は、平成28年10月1日にみずほ投信投資顧問株式会社、新光投信株式会社、みずほ信託銀行株式会社（資産運用部門）と統合し、商号をアセットマネジメントOne株式会社に変更しました。なお、当該統合に伴い、ファンドの運用方針、運用プロセス等に変更はありません。

■委託会社の統合により、約款に所要の変更を行いました。

(平成28年10月1日)